

2022.07.10 福岡37会、 福岡県・四王寺山(しおうじやま)の
シャシャンボ、 オケラ、 オニタケ、 アキノタムラソウ



シャシャンボ
(南燭・小小坊)
ツツジ科



オケラ (朮)
キク科



オニタケ(鬼茸)
ハラタケ科
ジョージア・カフェラテの
ペットボトルと比べて



アキノタムラソウ
(秋の田村草)
シソ科

行程：右図のとおり
焼米ヶ原～大原山354m～百間石垣（デポ地）

大原山
山頂 354m

2022/07/10
9:11

02:28 3.2 km 84 m 219 m
タイム 距離 上り 下り

平均ペース ゆっくり 50~70%



2022/07/10 9:53



2023/07/10 7:51
焼米ヶ原駐車場



特別史跡 おおのじょうあと 大野城跡

所在地 宇美町、太宰府市、大野城市
史跡指定 昭和 7 年 7 月 23 日
特別史跡指定 昭和 28 年 3 月 31 日



大宰府の防衛網

大野城とは

ここ四王寺山の一帯には、今から1,300年以上前の665年に築かれた朝鮮式山城の跡があります。名を大野城といい、頂上域全体を囲むように土や石の城壁を巡らし、その中に建物を建てました。約70棟の建物跡が見つかっており、そのほとんどが高床の倉庫と考えられます。城壁は総延長約8kmにおよび、現在のところ、9箇所の城門（出入口）が確認されています。

この大野城は同時に築かれた基肄城（眼下の平野をはさんで向い側（南）にある基山）、前年の664年に造られた水城とともに大宰府地域を守る役目を果たしました。

大野城が築かれた理由

7世紀の中頃、朝鮮半島では高句麗・新羅・百済の三国が抗争を繰り返し、唐と手を結んだ新羅から、百済と日本の連合軍は大敗するという事件（白村江の戦い）が起きます。唐と新羅の侵攻を恐れた日本は九州北部を中心に防衛網を作りますが、その一つが大野城、基肄城、水城です。

城の構造（城壁と建物）

城壁の尾根の部分には土塁（土をつき固めて積み上げる工法を用いた城壁）、谷の部分には石垣を築いています。

高床倉庫があった場所には、現在、礎石（柱が立っていた）だけが残っています。倉庫内には米などを収納していたと考えられます。この近くの倉庫群跡（尾花礎石群）周辺からは炭化した米が見つかったため、焼米ヶ原と呼ばれています。

四王寺山の名

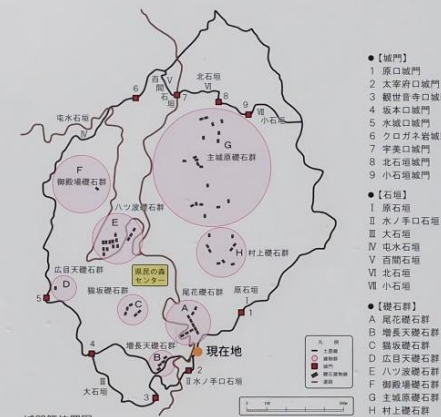
築造開始から、約100年経った奈良時代末、大野城内に四天王寺を建て、仏教の力で国を守ろうとしました。四王寺山という今の名は、この時の寺の名に由来するものです。



ハッ波礎石群



百間石垣



城門等位置図



尾花地区土塁



太宰府口城門跡

大野城と万葉集

奈良時代の人は大野城があったこの山を大野山、大城山と呼び、歌に詠みました。

大野山霧立ち渡る我が嘆く
おきその風に霧立ち渡る 山上憶良
(大野山に霧が立ち渡る わたしの嘆くため息の風で霧が立ち渡る)

今もかも大城の山にほととぎす
鳴きとよむらむ我なけれども 大伴坂上郎女
(今も大城の山ではほととぎすが鳴き立っていることだろう、わたしがいなくても)

平成14年3月31日 設置
財団法人大宰府保存協会
財団法人九州国立博物館設置推進財団
平成28年3月31日 更新
福岡県立四王寺町の森協議会
福岡県教育庁総務課文化財保護課
(図説及び写真提供:九州歴史資料館)



リョウブ(令法)
リョウブ科 落葉小高木



ヤマフジ(山藤)マメ科
つる性落葉本木
別名：ノフジ(野藤)



ヤマグリ(山栗)ブナ科
別名：シバグリ(柴栗)



ハゼノキ(櫨の木、櫨、黄櫨の木)
ウルシ科



ブタナ (豚菜)
キク科 帰化植物

2022/07/10
8:07

大野城跡と四王寺山
四王寺山の名で親しまれるこの山は昔、大野山とも呼ばれ、万葉集にも歌われています。665年には、この山頂全体を城とする大野城が築かれ、大宰府を守る役目を果たしました。延々続く尾根はその時の土の城壁であり、所々に石垣や倉庫跡の礎石も残っています。後に四王寺という寺も建てられました。
福岡県 90

焼
米
ヶ
原

大野城跡と四王寺山

四王寺山の名で親しまれるこの山は昔、大野山とも呼ばれ、万葉集にも歌われています。665年には、この山頂全体を城とする大野城が築かれ、大宰府を守る役目を果たしました。延々続く尾根はその時の土の城壁であり、所々に石垣や倉庫跡の礎石も残っています。後に四王寺という寺も建てられました。

福岡県 90



シヤシャンボ (南燭・小小坊)
ツツジ科



シヤシャンボ (南燭・小小坊)
ツツジ科



三十三体石仏
六番
三宝荒神

2022/07/10 8:12



不明



ヤマグリ(山栗)ブナ科
別名: シバグリ(柴栗)



2022/07/10
8:17



四王寺三十三体石仏
七番
如意輪観音
四王寺市民の森協議会

2022/07/10 8:31



2022/07/10
8:31



コキンバイザサ
(小金梅笹)
キンバイザサ科



2022/07/10 8:39
元は灰皿用として
使用されたいしい



2022/07/10
8:41



オカトラノオ (丘虎尾)
サクラソウ科



ジャノヒゲ
(蛇の髭)
ユリ科



オケラ (戒) キク科



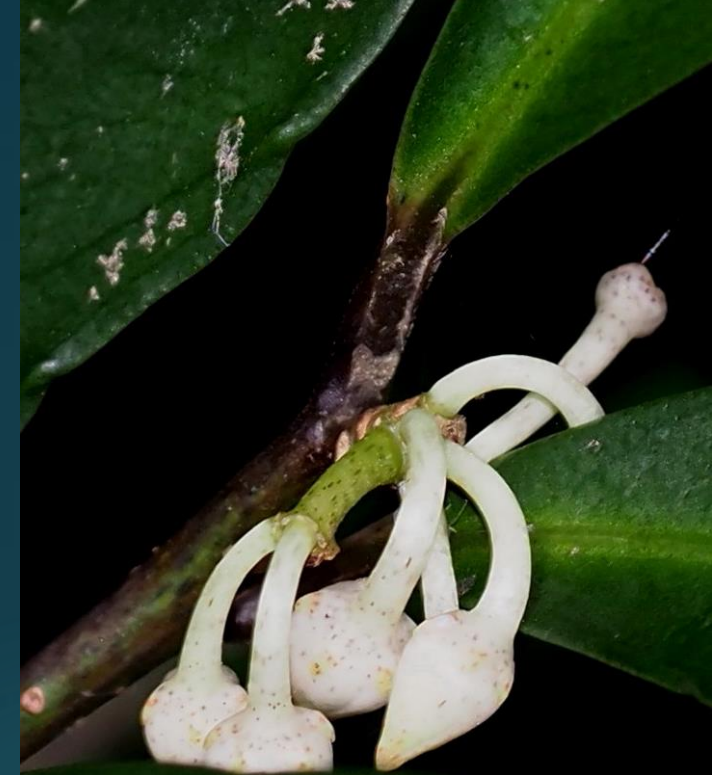
ジャノヒゲ (蛇の髭)
ユリ科



シロオニタケ
(白鬼茸)
テングタケ科



2022/07/10 9:17
大原山354m



カラタチバナ(唐橘)
サクラソウ科
別名: ヒョクリョウ(百両)



2022/07/10 9:45



オニタケ(鬼茸) ハラタケ科



オニタケ(鬼茸)
ハラタケ科
スマホと比べて



2022/07/10 9:53



コナスビ(小茄子) サクラソウ科



オニタケ(鬼茸)
ハラタケ科



ユウスゲ(夕菅) ユリ科
別名: キスゲ(黄菅)



ウツボグサ
(靱草)
シソ科



特別史跡大野城跡小石垣

大野城は、663年（天智2）白村江の敗戦を期に西日本各地に築かれた山城の一つで、水城・基肆城とともに大宰府を守る役割を担っていた。周囲6.5kmを土塁（高い土手）で取り囲み、谷は石塁（石積みのだむ）で塞ぎ、要所に門をつくり城内に武器や穀物を納めたたくさんの倉庫などを作った。

小石垣は城の東北部にあり、二重土塁の内側の石塁である。石塁はほとんど崩れてしまったが、上端幅5m・高さ10m・両岸間30mほどで、水門もあつたのだろう。見えている石垣のほか地下に残っている部分がある。

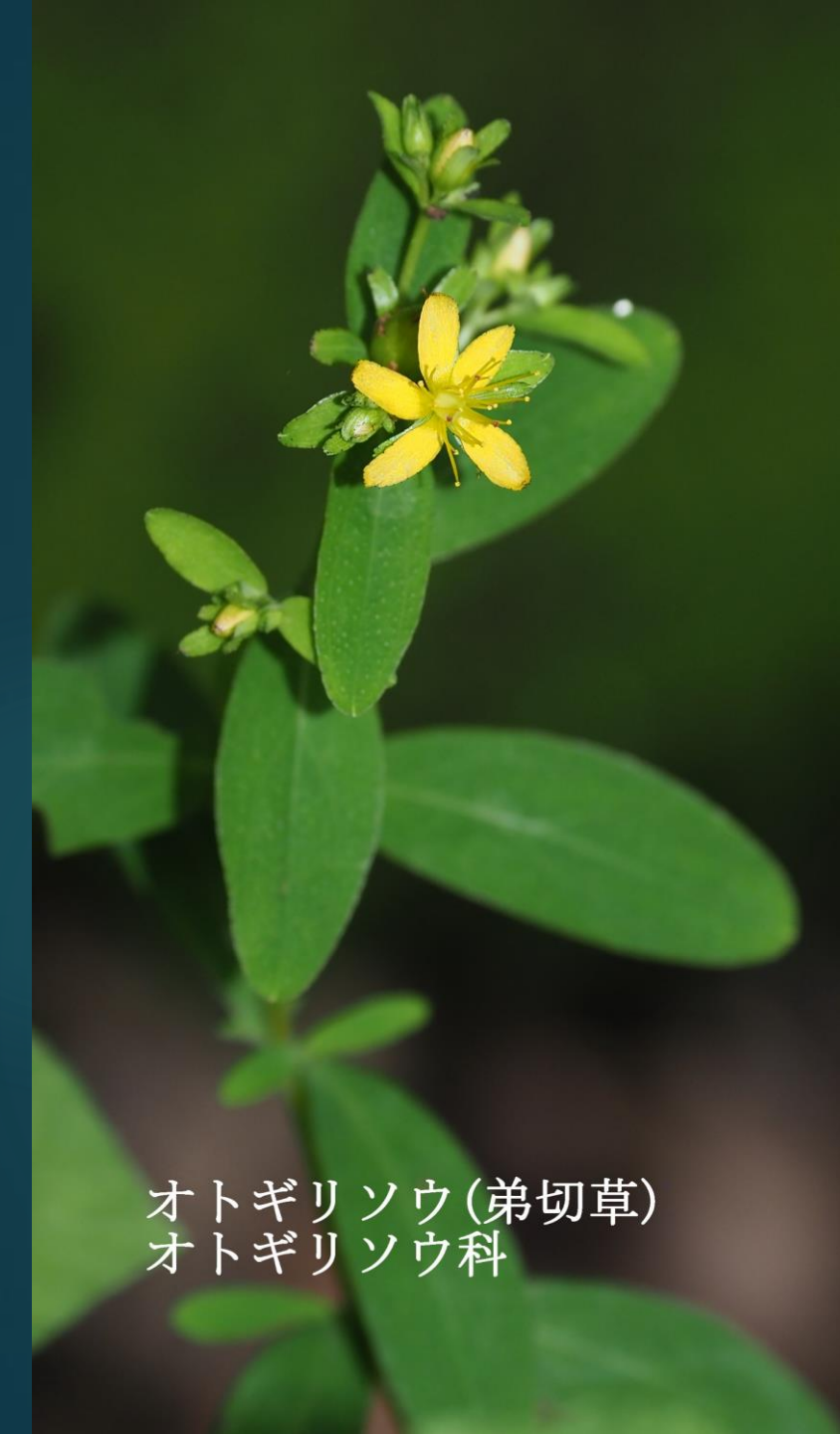
大野城 全体図



小石垣 復原図



2022/07/10 10:08



オトギリソウ(弟切草)
オトギリソウ科



アキノタムラソウ
(秋の田村草)
シソ科



2022/07/10 10:17
ラクウショウ(落羽松) スギ科
別名: ヌマスギ(沼杉) 落葉高木



ヤマアジサイ (山紫陽花)
アジサイ科





2022/07/10 10:34
百間石垣の駐車スペースに到着 (デポ地)
2時間40分の行動時間

END